
F.O.B. Fest of Battles

京ヶ一井蛙

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

F・O・B・Fest of Battles

【Nコード】

N9820A

【作者名】

京ヶ一井蛙

【あらすじ】

格闘小説。決めようじゃないか、この世に何千何万といる「王者」ではない、本当に世界で一番強い人間を……。闘いの祭典、開幕！

#1 Pilot（前書き）

こちらではお初です。宇内井蛙^{うだいせいあ}と申します。文章はヘタツクソですが心にガツンと来る作品を作っていきたいと思います。応援お願いします。

#1 Pilot

忘れない。

黒く淀んだ空。降りしきる雨。固唾を飲み見届ける人々。この風景だけは忘れることはない。

何度も夢の中で再現されるあの空間。それは、久我長達くがながたつとランカー・オズワルドが出遭い、そして闘った場所。彼らは遭遇した瞬間に、互いが互いを認識した。目の前にいるあの男こそが己の終生の敵。2009年冬。ロンドン、トラファルガー広場。

この日、久我はランカーに生涯初の敗北を贈呈された。夢はいつも一進一退の攻防を繰り広げたのちの、ランカーが久我を圧倒しはじめたところから始まる。打たれ、極められそうになるのを振り切り、また打たれ、極められる。

完全に久我の腕を捉えたはずだったが、久我は死力で逃れる。

その直後、ランカーの右こぶしが久我の顎を綺麗に打ち抜いた。膝を、落とす。

攻撃が来ない。久我は顔を上げると、ランカーは厳しい表情で仁王立ち。

「久我…」語り掛ける。

「お前は、お前でさえ」表情に哀しみが滲みだす。

「…ここまでなのか」

そんな顔するなよ。久我はそう言おうとするが、呼吸が追い付かず、言葉を発するどころではなかった。

ランカーは、構える。久我にとどめを与えるために。

「おおおおおおおおおッ!!」

ランカーの渾身の一振りが久我を襲う。その瞬間、体中の細胞が最後の力を絞りだし、久我を奮い立たせた。そして-

「ランカアアアアアアアアアアアアアア…」

「アアアアアアアアア、あああ？」

久我は周りを見渡す。他の乗客のきょとんした目が集中する。

なんてこった、今日の夢はとうとう最後の絶叫が声に出てしまっていたか！

ほどなくしてキャビン・アテンダントが久我の元にやって来て、久我は彼女に平謝りする。すいません、寝言なんです、本当ですってばっ！

そして、機内は普段の空気に戻る。久我は息を吐き、手元のコーヒーに手を伸ばす。

記念すべき二十回目のランカー戦の夢は、よりによってホノルル発成田行の上空で、絶叫付きで再生された。

実際の闘いはあの最後の抵抗も虚しく、右ストレートで決着した。あれから約二年、久我はストリートファイトやら総合格闘技大会の飛び入り参加などで無傷の連勝を重ねた。勝ち続けなくてはいけない。あの男に再び勝負を挑むまでは…！

俺を負かすことができるのはランカーだけだ！そして、ランカーでさえ二度目の勝ちはない！

「完全なる格闘家」となったこの久我長達こそが次こそ勝利を収めるのだ…！

久我は有益な情報を手にしていた。今年、2011年の夏、全格闘団体、全プロアマ格闘技の垣根を越えた究極のトーナメントが開かれる。

その名も「F・O・B・Fest of Battles」。闘いの祭典と銘打たれたこの大会には本来ではありえない各分野の超大物たちの出場が続々と内定しているという。

その中にいたのだ。今や世界が認める「最強に一番近い男」。ランカー・オズワルドが！

久我にとってプロの公式試合に一切出ていないことが仇になった。
まずはF・O・B・出場への切符をどうにかして手に入れなくては
ならない。

そのために、久我は3年ぶりのふるさととなる日本へと向う…。

#1 Pilot（後書き）

「プロアマ」と打とうとしたら「プロ海女」と変換されたよ。すげー強そうな海女さんを想像。

#2 Pilot 2

緊急帰国を決めたのはホノルルで耳にした酔っぱらいの言葉が発端だった。

3年前の2008年4月に日本を発ちそれからぐるっと西に世界一周の武者修行を続けてきた。

そしてついに3年かけてハワイまでやって来た。ハワイには2週間滞在の予定だった。

もちろん観光などではなく、2週間みっちり修行するのだ。そして、まだ見ぬ強敵を探しだし、お手合わせ願う。

そんな予定が一泊二日に急変したのは滞在初日夜のホテルでの出来事が原因だ。

その日の朝、久我はホノルルに上陸すると空港近くの免税店で買ったアロハに着替え、早速ストリートファイトが楽しめる場所を探した。

ビーチをほつつき歩いていると、久我は人だかりを見つける。聞けば、自由参加のグラップリングファイト、つまり打撃不可のストリートファイトをやっているという。

久我は早速闘わせてくれとエンタリーした。そして、一番強そうな奴が相手がいい、と係の男に注文した。

続いて彼に、賞金はいくらだ、と訊く。こいつはお遊びだから金が出ない、その代わり勝てばビールをたらふく吞ませてやる、と返答が来た。

久我は男に参加費の5ドルを渡すと、自分の出番まで試合の様子を眺めていた。

確かにお遊びで、あまり腕に覚えのある者はいないようだった。まあ、初日だしこんなものかと思っていたら、一人の男が人だかりにやって来て、係に5ドルを支払っている。

久我は、この多少は楽しませてくれそうなこの男が自分同様に、強い奴と闘いたい、と言っているのが聞こえた。

久我は、彼に分かるように手を挙げて見せた。男の視線が久我に移る。

体育座りで試合を観戦していた久我は立ち上がり、ズボンの砂を払うと男に言った。

「俺が相手になろう」

周辺が、急にざわつく。久我が名乗りを挙げたからではない。その男が、どうやらこのグラップリングファイトでは最強の男だからだったようだ。

周りから、おい日本人悪いこと言わねえからやめとけ、だの、ブラックは今日もビールにありつけるぞ、だのと聞こえてくる。

久我は気にせず、ブラックという名前らしいその男に対して、もう一度言った。

「俺が、相手になろう」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9820a/>

F.O.B. Fest of Battles

2011年1月6日14時33分発行